

製品名: hnRNP C1/2 (リン酸化 Ser260) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04787**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	41kDa

抗原情報

遺伝子名	HNRNPC
別名	HNRNPC; HNRPC; Heterogeneous nuclear ribonucleoproteins C1/C2; hnRNP C1/C2
遺伝子 ID	3183.0
SwissProt ID	P07910
免疫原	抗血清は、Ser260 のリン酸化部位周辺のヒト hnRNP C1/2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 231-280

背景

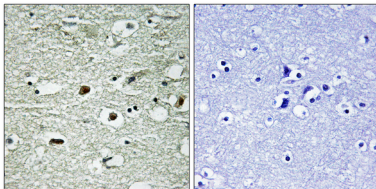
この遺伝子は、普遍的に発現する異種核リボ核タンパク質 (hnRNP) のサブファミリーに属します。hnRNP は RNA 結合タンパク質

であり、異種核 RNA (hnRNA) と複合体を形成します。これらのタンパク質は核内の pre-mRNA と関連しており、pre-mRNA のプロセッシングや mRNA 代謝・輸送の他の側面に影響を及ぼすと考えられています。すべての hnRNP は核内に存在しますが、一部は核と細胞質の間を往復しているようです。hnRNP タンパク質はそれぞれ異なる核酸結合特性を持っています。この遺伝子によってコードされるタンパク質はテトラマーとして機能し、40S hnRNP 粒子の集合に関与しています。この遺伝子には、少なくとも 2 つの異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが記載されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: pre-mRNA に結合し、40S hnRNP 粒子の集合を核形成します。HNRNPC テトラマー単体は 230~240 ヌクレオチドを結合します。HNRNPC テトラマーのトリマーは 700 ヌクレオチドを結合します。スプライソソーム構築および pre-mRNA スプライシングの初期段階で役割を果たす可能性があります。mRNA の 3'-UTR または 5'-UTR のポリ U 領域と相互作用し、結合した mRNA 分子の安定性と翻訳レベルを調節します。、PTM: 休止細胞では Ser-260 と Ser-299 がリン酸化されます。過酸化水素に反応して、Ser-253 と、位置 238 のポリ Ser 伸長領域中の 1 つのセリン残基がリン酸化されます。、PTM: SUMO 化されます。SUMO 化は mRNA への親和性を低下させます。、類似性: RRM HNRPC ファミリーに属します。 RALY サブファミリー。、類似性: 1 つの RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを含む。、細胞内局在: リボヌクレオソームの構成要素。、サブユニット: アイソフォーム C1 の 3 つのコピーとアイソフォーム C2 の 1 つのコピーからなるテトラマー。3 つのテトラマーが pre-mRNA と結合して 19S 複合体を形成し、HNRNPA2B1 テトラマーと相互作用する。40S hnRNP 粒子の構成要素。スプライソソーム C 複合体に同定され、少なくとも AQR、ASCC3L1、C19orf29、CDC40、CDC5L、CRNKL1、DDX23、DDX41、DDX48、DDX5、DGCR14、DHX35、DHX38、DHX8、EFTUD2、FRG1、GPATC1、HNRNPA1、HNRNPA2B1、HNRPA3、HNRNPC、HNRPF、HNRPH1、HNRPK、HNRPM、HNRNPR、HNRNPU、KIAA1160、KIAA1604、LSM2、LSM3、MAGOH、MORG1、PABPC1、PLRG1、PNN、PPIE、PPIL1、PPIL3、PPWD1、PRPF19、PRPF4B、PRPF6、PRPF8、RALY から構成されています。RBM22、RBM8A、RBMX、SART1、SF3A1、SF3A2、SF3A3、SF3B1、SF3B2、SF3B3、SFRS1、SKIV2L2、SNRPA1、SNRPB、SNRPB2、SNRPD1、SNRPD2、SNRPD3、SNRPE、SNRPF、SNRPG、SNW1、SRRM1、SRRM2、SYF2、SYNCRIP、TFIP11、THO C4、U2AF1、WDR57、XAB2、および ZCCHC8。

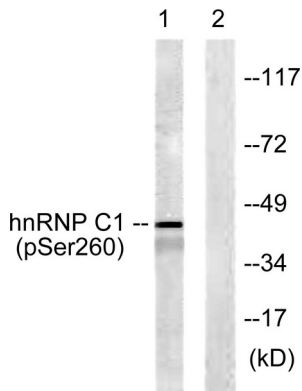
研究分野

スプライソソーム;

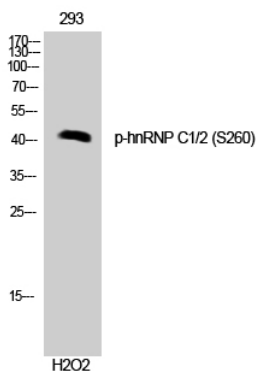
画像データ



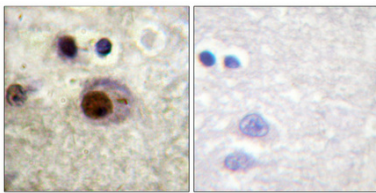
hnRNP C1/2 (リン酸化 Ser260) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



hnRNP C1/2 (リン酸化Ser260) 抗体を用いた、H₂O₂ 100uM 15分処理した293細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 hnRNP C1/2 (S260) ポリクローナル抗体を用いた293細胞のウェスタンブロット解析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。